

表題	中晩生モモの適正着果位置及び袋掛け時期延長	機関	農業研究センター 球磨農業研究所
概要： 中晩生モモの大玉・高糖度果実生産のためには、 <u>相対日射量</u> 30 %以上が必要で、そのためには着果位置の高さは 1.5 m以上が適当である。また、袋掛け時期の延長は、開花後 75 日(平年6月上旬頃)までが、健全果率と着色を維持できる限界と考えられる。			

## 研究のねらい

本県では、高品質安定生産を目指した中晩生モモのネット栽培を推進しているが、開心自然形において高品質果実安定生産のための適正着果位置を明らかにし、整枝・摘果等に役立て、中晩生モモの品質向上を図る。

また、現在5月下旬までに行われている袋掛けの期間を延長することにより、労力分散を図る。

## 研究の成果

1. 糖度が高く、大玉の果実生産のためには、果実肥大期の相対日射量が 30 %以上必要である。
  - (1) 結果位置の高さは、1.5m 以上が望ましい。
  - (2) 樹冠の外周部になるに従い、1果重は重くなった。
2. 袋掛け時期の延長は、収穫果率、健全果率、着色を維持する上で、開花後 75 日(平年6月上旬頃)までが限界である。なお、袋掛け時期の違いにより果重及び糖度に与える影響は無かった。

## 普及上の留意点

1. 開心自然形において、日射量確保のために、整枝努定及び芽かき・ねん枝・誘引等の新梢管理を徹底する必要がある。
2. 袋掛け前には、病害虫の防除を徹底し、病害虫の発生を抑える。

表 1 相対日射量と果実（平成 6 年度）

相対日射量(%)	果重[S. D](g)	糖度[S. D]	PH	健全果率(%)
10～ 20	215 (41)	11.3 (1.4)	4.4	72
20～ 30	218 (33)	11.8 (1.3)	4.3	88
30～ 50	235 (20)	13.0 (1.4)	4.4	81
50～ 70	238 (21)	13.4 (1.3)	4.5	83
70～100	234 (26)	13.2 (1.2)	4.5	80

(注) 相対日射量：樹冠外部の日射量に対する樹冠内部の日射量割合

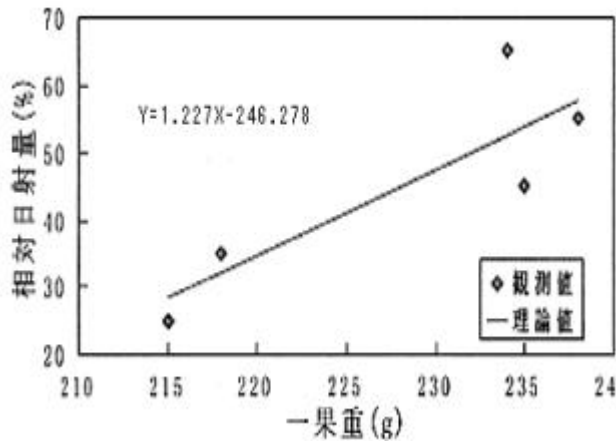


図 1 相対日射量と一果重の相関

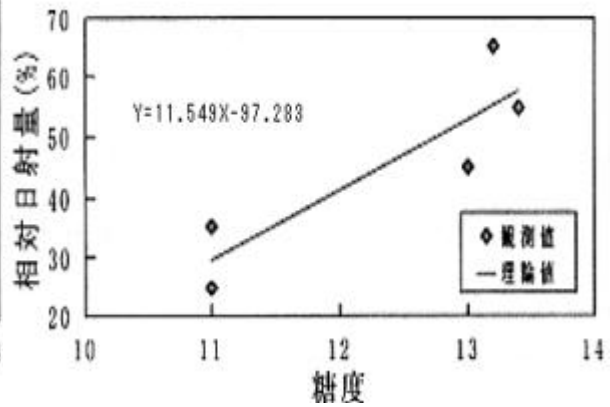


図 2 相対日射量と糖度の相関

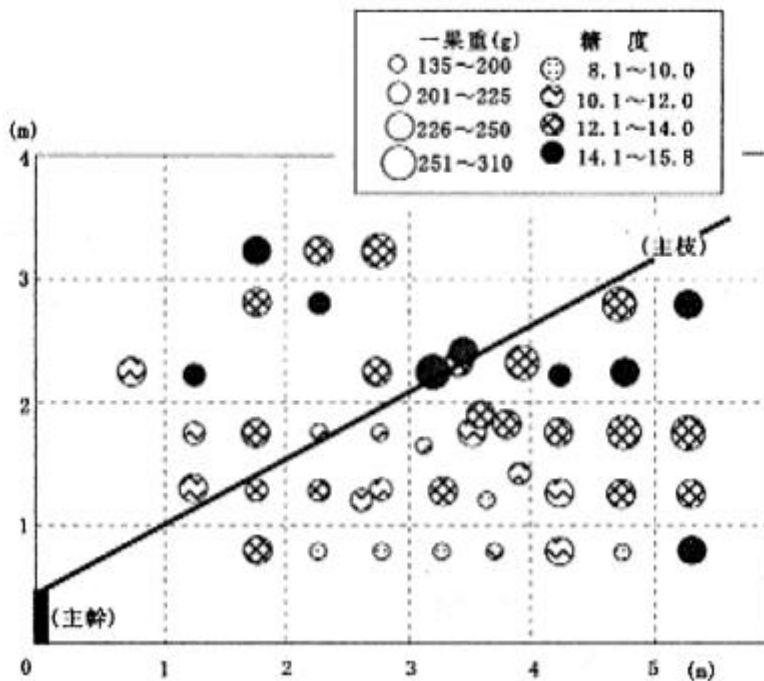


図 3 着果位置別果実品質（側面図）

表2 袋掛け時期と果実（平成9年度）

袋掛け時期	収穫果率(%)	健全果率(%)	1果重(g)	糖度	着色程度
開花55日後	70.0	46.4	217.7	11.7	2.57
開花65日後	63.3	43.5	209.0	11.1	2.76
開花75日後	63.3	44.4	239.2	11.0	2.78
開花85日後	53.3	35.9	212.1	11.3	2.24

注) 着色程度

3: 着色のむらが少なく、綺麗に仕上がったもの

2: 着色むらがやや多いか、または斑状の着色が少し認められるもの

1: 着色むらや、斑状着色が多く、また色彩が悪いもの